

まきりは

VOL.34 令和7年9月

私たちの理念

PURPOSE 社会的意義

Medical for Happiness

一人ひとりの幸せな人生を支えるために

PROMISE 私たちの約束

「Professional」

医療人としての誇りと謙虚さを持ち、日々研鑽を重ねます。

「Heart」

あたたかい想いやりの心とともに、あなたに寄り添います。

「Team」

和をもった信頼されるチームで、あなたを支えます。

contents

P1 Let's Study! 牧リハ塾「リレー講義」

P3 看護部 安心できる看護を提供するために

P4 リハビリテーション部の紹介
フレッシュマンインタビュー

P5 デイケア門真だより
お誕生日に手作りブーケをお届けします

P6 訪問リハビリテーションダイアリー
在宅で食べ続けるために ～食べる喜びを支えていきたい～

P7 海外・国内の美しい風景
旅するドクター 2



Let's Study! 牧リハ塾! 「リレー講義」



「未来の講師を育む」牧リハ塾の挑戦!



2025年6月、当院の勉強会「Let's Study! 牧リハ塾!」では、特別企画としてリハビリテーション部のスタッフ6人が登壇しました。

講義のテーマは「認知症について」。認知症に関する症状や関わり方、リハビリ効果など多角的な内容を、リレー形式でマイクをつなぎ順番に話していきました。途中、川柳を会場全体で読み上げるといったサプライズもあり、会場は一体感に満ちた空気となりました。私も含め、参加スタッフ一同とても刺激を受けました。

これからも、勉強会を通じてより良いリハビリテーションが提供できるよう職員一丸となって頑張っていきます。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

牧リハビリテーション病院
教育委員会
言語聴覚士
梶山 良平(かじやま りょうへい)



「Let's Study! 牧リハ塾!」は、リハビリテーションを行う上で必要となる基礎的な疾患の病態・診断・治療等について、職種を問わず学ぶことができる優しい会を目指しています。

当院公式Instagramで
講義の様子を
ご覧いただけます



熱心な意見交換で大いに盛り上がった
講演会となりました

牧リハ塾の講義を終えて

今回、入職5年目のメンバーで約10か月かけて発表の準備をしました。テーマ決めのあと、発表に向けて、役割分担をして文献や他病院の取り組みについて調べ何度も話し合いました。スライド作成では見やすさを意識し、参加者の方が飽きないようにアイデアを出し合いました。

当日はとても緊張しましたが、参加していただいた皆さんの顔を見ると、一気に緊張がほぐれ楽しく発表することができました。関わり方や取り組みについて、ご参加の皆さんと意見を交換し、当院における今後の活動にも活かしていけることがたくさんあると感じました。

また、職種は違っても同期が同じ目的をもって取り組めたことで絆が深まりました。経験を重ね、またいつの日か講師に挑戦したいと思います。



講師メンバー(左から)

舟本 紗希(ふなもと さき) 橋本 一輝(はしもと かずき)
木村 友哉(きむら ともや) 白川 菜々夏(しらかわ ななか)
藤井 理沙(ふじい りさ) 薄雲 勇人(うすぐも ゆうと)



安心できる看護を提供するために

身体機能が低下した患者さんに対し、様々な補助用具を活用しています

看護部

移乗用ボード

ベッドとストレッチャーの移動、ベッドと車椅子の乗り移りの際に患者さんの体に負担をかけず、安楽に移動できる補助具です。



立位補助具 【Hug(ハグ)】

一人で立つことが難しい患者さんに対して、立ち上がりをサポートする補助具です。Hug(ハグ)はキャスター付きで方向転換・移動を自由に行うことができるため、患者さんと介助者が共に負担なく車椅子への乗り移りやトイレ移動ができます。



背面開放:端坐位保持テーブル 【sittan(シッタン)】

ご自身で座位姿勢を保つことが難しい患者さんに使用します。背面が開放されており、座位姿勢中の安全を守りながら座位姿勢を保つ訓練になる補助具です。



ころやわマット(150×90cm)

転んだ時の衝撃を緩和し、骨折など大きなケガを防ぐことを目的に使用しています。患者さんのリハビリが進み、少しずつ出来る動作が増えて行く中、行動を制限することなく少しでも安全な環境を整えるために使用しています。



ポジショニンググローブ

滑りやすい素材でできており、ベッド上で摩擦を最小限に患者さんと介助者双方の負担なく患者さんの身体を動かすことができます。また、同一部位の圧迫を軽減する際にも使用しています。



2025年度 看護部スローガン

温かい、優しい手でケア
道具を使って楽にケア



看護部では2024年度から「温かい、優しい手でケア/道具を使って楽にケア」をスローガンとしています。

患者さんが安心・安楽に入院生活を送れ、患者さんに合った補助用具で毎日のリハビリをサポートしながら入院生活が少しでも満足のいくものになるよう支援していききたいと思います。

4階病棟 看護師 岩本 理沙(いわもと りさ)

FRESHMAN INTERVIEW

リハビリテーション部の紹介

私たちの新しい仲間の、素顔に迫ります!!



理学療法士
逢坂 菜沙(おおさか なすな)

Q.仕事をしていてやりがいを感じた瞬間は?

入院直後に「リハビリは嫌」「入院生活は楽しみがない」と話していた患者さんが、「リハビリの時間が1日の楽しみ」と言ってくれたときです。身体機能の改善だけでなく、リハビリの時間を通して前向きな気持ちになれるようサポートすることで、患者さんの笑顔を引き出したことが自信に繋がりました。

Q.これからの目標は?

一つの分野にとらわれることなく、さまざまな領域を経験し、幅広い視野を持ったスペシャリストになることです。これまでに学んできた知識や、今後の経験を積み重ねながら、「この人になら大切な人を任せたい」と思ってもらえるような理学療法士を目指して努めていきます。

Q.仕事をしていてやりがいを感じた瞬間は?

病気や怪我の影響で出来なくなってしまった動作がリハビリを進めていく中で再び出来るようになった時、患者さんの笑顔や嬉しそうな顔を見ることが、喜びを共有できることがやりがいとなっています。退院時にこの人のリハビリを受けて良かったと思っていただけると励みになります。

Q.これからの目標は?

リハビリをするうえで自身の笑顔を絶やさないことです。笑顔は他者に伝播すると思っています。そのため私の笑顔を見ることが笑顔になれる人がいるかもしれない。このように考えているため、リハビリ中に笑顔を絶やさないことを目標とし、今後作業療法士として励んでいきたいです。



作業療法士
乾 新之助(いぬい しんのすけ)



言語聴覚士
堀口 希歩(ほりぐち のあ)

Q.仕事をしていてやりがいを感じた瞬間は?

患者さんの“できた”に立ち会えた瞬間にやりがいを感じました。“入院してから初めて、水を飲むことができた”“コミュニケーションをとることは難しいけれど、声を出すことができた”など、患者さんが回復を実感されている場面に出会えた時に喜びを感じます。

Q.これからの目標は?

広い視野を持ち、患者さんと関わっていくことです。治療プログラム立案の際、問題や原因をすぐに決めつけるのではなく、さまざまな可能性を考慮した評価ができるようになりたいです。技術を磨き、患者さんに適したリハビリを提供したいと考えています。また、今年の牧リハフェスティバルにもチャレンジしたいと考えています。

お誕生日に手作りブーケをお届けします



今年のお誕生日には手作りのバラのブーケをプレゼントさせていただいています。

バラには1本なら一目惚れ、50本なら永遠の愛など贈る本数によってそれぞれ意味が込められています。今回は「あなたのことを大切に想っています」という意味を持つ5本のブーケにしました。日頃の感謝の気持ちを込めて、ケアワーカーをはじめ、セラピストも含めたスタッフ全体で、花びらを1枚1枚組み合わせ、手作業で1つのバラを作成しています。お誕生日会では、誕生日ボードの前に来ていただき、利用者さんやスタッフみんなでハッピーバースデーを歌ってお祝いします。ボードの前にお誘いすると「恥ずかしい」とおっしゃる方もいますが、たくさんの人からお祝いされると、照れながらも喜んでくださいます。ブーケを受け取ると、涙を浮かべながら「ありがとう」とおっしゃったり、元気に1年の抱負を発表してくださる方がいます。また、「あのお花、部屋に飾ってるよー。明るくなった気がするわぁ」というお話をお聞きすることもあります。そんな利用者さんの笑顔を見ていると、私たちも嬉しく、幸せな気持ちになります。

これからもみなさんに喜んでいただけるよう、お花作りをがんばります！

介護福祉士 鎌田麻里(かまたまり)



在宅で食べ続けるために ～食べる喜びを支えていきたい～



食べることは、生命の維持だけでなく、人と繋がったり、喜びを感じたり、自分らしい暮らしを支える重要な行為です。その当たり前で、大切な営みがなくなるのが嚥下障害です。

約1年半前、訪問先の施設ケアマネジャーから、嚥下障害の方で「口からまた食べられないか」と相談を受け訪問リハビリが始まりました。そのご利用者さんは、前施設で新型コロナウイルスに罹患され、全身の体力や飲み込む力が落ち、誤嚥や窒息のリスクが高い状態でした。

「何でもいいから食べさせてくれ、腹減ってるんや」とご本人さんの訴えや、食べさせてあげたいと強く望まれるご家族さんの姿がありました。現状とのギャップもありましたが、口から食べることを前提に進める必要が求められました。

食べる力を取り戻す為に、施設では毎日の口腔ケアや離床機会を増やし、訪問リハビリでは、適切な姿勢や食事内容、水分のとりみ濃度、一口量、食べるペースの調整を行い、繰り返し食べる練習を続けました。そして、1日1食開始できるまでになった頃、短い時間で食べられる量や食事内容の再検討を施設と行い、施設スタッフには食事介助場面を実際にみて確認してもらいました。誰もが安全に食事介助できる方法を選択し引き継いだことで、1日2食への提供が可能になりました。

訓練からスムーズに移行し、食事回数が増えた事で、ご本人さんの食べる力を更に引き出せたのではないかと思います。

今年の誕生日には、サプライズで大好きなビールを、お楽しみ程度に飲むことができ、ご家族さんとほろ酔い気分楽しいひと時を過ごす事も出来ました。

特に在宅生活の食支援では、環境や人的サポートに限界があります。しかし、食べる喜びを支える為には、病態を理解し、できる工夫を常に考え、ご本人さんやご家族さんに寄り添う姿勢が何よりも大切だと感じています。

安心して好きなものを食べて欲しい、食べることで喜びや楽しみを感じて欲しい、食べることに制約があるからこそ、ご家族さんと同じ時間を過ごしていただけるよう尽力致します。自らの学びを止めず、諦めないリハビリで地域のご利用者さんの食べることを、これからも精一杯支えていきたいと思っています。

言語聴覚士 江角宏之(えすみ ひろゆき)



旅するドクター 2

今号の表紙: 高知県

今回は、有名な『仁淀ブルー』が見たくて、高知県を訪れました。仁淀川が、なぜ青く見えるのかは、諸説あります。急峻な地形で流れが速く、比較的水温が低くて藻が繁殖しにくいと、透明度が高いそうです。また、「緑色片岩」という薄い青緑の石が川底に多くあることも、青く見える要因の一つと考えられているようです。

写真上①は、中津溪谷の写真です。仁淀川上流にある溪谷で、約1.2kmの遊歩道が整備されており、清流を眺めながら、そぞろ歩きが楽しめます。写真のように、澄んだ青緑が人々を惹きつけます。

写真左②は、『にこ淵』の写真です。水神の化身とされる大蛇伝説の舞台となった神秘的な青い滝壺です。青い空・白い滝しぶき・青緑の滝壺・澄んだ水、と幻想的なシーンで、多くの観光客が滝をバックに記念写真を撮影していました。

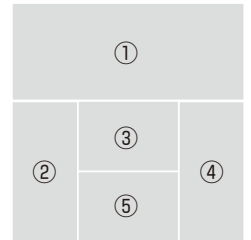
写真中③は、四万十川にかかる高瀬沈下橋の写真です。四万十川は、四国内で最長の川で、「日本三大清流の一つ」と呼ばれています。沈下橋とは、台風や大雨により川が増水した際に、川の下に沈みこんで橋自体が流されないように設計されている欄干のない橋です。四万十川には、合計47の沈下橋があるそう

です。緑の山々に、清らかな四万十川、そして沈下橋という風景は、とても気持ちを穏やかにします。

写真右④は、高知城の写真です。高知城天守は1749年に完成し、修理・修復を経て、現在に残されています。江戸時代までに建てられ、修復されながら現在まで残っている天守は、日本全国に12基しかなく、「現存天守」と呼ばれており、高知城もその1つです。世界遺産の姫路城と比べるとスケールの差は否めないので、歴史を感じる佇まいでした。

写真下⑤は、日曜市の写真です。高知城が見える追手筋(おうてすじ)という大通りに、400店を超えるお店が約1kmにわたって並びます。その起源は古く江戸期の1690年、土佐藩の政策として始まった街路市が明治期になって日曜市と呼ばれるようになったそうです。なんと、300年以上の歴史があります。新鮮な朝採れ野菜、手作りのお惣菜、干物などの海産物加工品、植木や土佐刃物などの生活雑貨、そしてお土産品も手に入ります。早朝から夕方まで開かれているので、1日ゆっくり楽しめます。

以上、高知県を紹介しました。次号もお楽しみに!



アクセス

【電車の場合】
■大阪メトロ長堀鶴見緑地線「門真南駅」下車2番出口上がってすぐ。

【お車の場合】
■近畿自動車道をご利用の方は、北行き「大東鶴見」南行き「門真」出口を降りてください。
■第2京阪道路をご利用の方は、西行き「第2京阪門真」出口を降りてください。
■中央環状線(堺方面)からお越しの方は「ラクトブーム」の看板が見えたら「茨田大宮1交差点」を右折し、セブンイレブンの角を左折後直進、1つ目の信号を左折し更に左折してください。
■中央環状線(守口・大日方面)からお越しの方は「ラクトブーム」の看板が見えたら側道へ入り、1つ目の交差点「第2京阪側道」を左折後すぐ「三ツ島」より側道へ入り、1つ目の信号を右折(高架をくぐり)更に右折後直進してください。
■1号線(第2京阪側道)(枚方方面)からお越しの方は、北島東交差点後、「三ツ島」より側道へ入りそのまま直進してください。

病院敷地内に駐車場がありますが、少数のため空きが無い場合はラクトブームのコインパーキングをご利用ください。

【お問い合わせ先】

社会医療法人 **ONE FLAG**

牧リハビリテーション病院

〒571-0015 門真市三ツ島3丁目6番34号

<https://www.maki-group.jp/makireha/>

TEL.072-887-0010



@MAKI_REHABILITATION_HOSPITAL